

主催者代表挨拶

松野 博一
文部科学副大臣



本日はお忙しい中、第六回国際教育協力日本フォーラムに、大勢の皆様にお集まりいただきましたことに対し、心よりお礼申し上げます。主催者である文部科学省を代表し、一言御挨拶を申し上げます。

本フォーラムは、国際社会が一致団結して取り組んでいる「万人のための教育」(EFA) 実現に向け、開発途上国の自立的な教育開発を支援することを目的として開催するものであります。第六回に当たる今回は、教育の質を多様な視点から考えるとともに、それら多様な教育の質の向上を実現するため開発途上国自身はいかになすべきか、またそれらの国々へ向けての国際協力はいかにあるべきかという課題に関して、幅広くご議論いただく予定であります。

まず、本日ここに、基調講演者としてコンラビ・フランシスコ・セド一元トーゴ共和国教育大臣並びに梶田叡一兵庫教育大学長をお迎えできましたことを心からうれしく思います。セド一元大臣は、トーゴ共和国ロメ大学長や同国教育大臣を務められた後、ユネスコへ移られ、アフリカ地域の教育の推進にご尽力されていると伺っております。「万人のための教育」を成し遂げるにあたり最も課題とされている地域の一つであるアフリカの教育の現状や、そこで必要とされる教育の質について最もよく知っている方の一人と伺っております。

梶田学長は、我が国の教育に係わる様々な重要事項に関する文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会の委員を長年務められ、現在その副会長の任にあられます。我が国が次世代の子どもたちに求める人間像や、そのための教育とは何かに関して御講演いただける最も適切な方でおられます。

お二人の御講演から、教育の質とは何か、またその教育の質を向上させるためには何が必要かについて、日本のこれまでの経験と比較して、貴重なアイデアが得られるものと期待しております。

また、午後のパネルセッションに、内外の専門家や教育の質の向上に現場で携わっている皆様をお迎えできましたことを感謝申し上げます。皆様の豊富な御経験から本日のテーマに関して自由で活発な御議論がいただけますことを期待しております。

文部科学省では、開発途上国における教育協力のため、我が国の知見を踏まえた教育協力モデルの構築などを行う「国際協力イニシアティブ」に取り組んでいます。

また、国際協力機構(JICA)の協力を得て、国公立学校の現職教員を青年海外協力隊として派遣し、開発途上国の教育支援活動に取り組んでいただいています。文部科学省としては、引き続き、我が国の経験、知識と人材を活かした国際教育協力推進してまいりたいと考えております。

「万人のための教育」の達成期限とされている2015年の中間年にあつた昨年、我が国でアフリカ開発会議(TICAD)やG8北海道洞爺湖サミットが開催されました。特にアフリカ開発会議においては、横浜宣言が合意に至り、教育分野もその中で具体的なアクションを伴った行動計画が打ち出されました。「万人のための教育」達成期限まで残すところ七年となり、その実現のため、そこで掲げた支援策の着実な実施はもとより、教育の質の向上により一層の効果を上げられる支援の方法が求められていると考えております。

今回のフォーラムが、開発途上国の自立的な教育開発とそれを支援する教育協力に関して、その中でも特に「教育の質」についての、有意義な議論の場となりますこと、加えて、広く内外の関係者の方々にそれらについてのご認識を深めていただく契機となりますことを祈念し、私からの挨拶の言葉とさせていただきます。